3 C町2丁目・3丁目

所轄の担当官によると、C町は古くからの居住者がわずかにいた地域を宅地開発したため、それまで人の住んでいなかった地域に新しく住民が流入してできた町丁目である。またここでは、自治会レベルでは地域安全活動を推進していても、必ずしも住民の大多数に波及しない点が、問題点となっているとのことである。2丁目は、住民調査の結果では図4－3－1のような店舗付き住宅や、低層アパート等の集合住宅に居住する者の割合が高く、一人暮らし世帯の割合も高い。事業所やその駐車場が多い地域では、夜間の監視性の低下が懸念される。一方、隣接する3丁目は、人口は2丁目同様比較的少ないものの、賃貸住宅入居者の割合が比較的高くなっている。3丁目で住民調査の対象となった者は、地域への愛着が薄く、地域で起こる問題の解決能力も低いと感じている者の割合が高い。

犯罪等の発生については、2丁目では平成10年の侵入盗の人口比認知件数が比較的高くなっている。同時に、空き巣やひったくりに対する不安感も高くなっている。一方3丁目は、侵入盗の自己報告被害がみられるほか、忍び込みやちかんの不安感が高くなっている。また2丁目、3丁目ともにバンダリズムに関して自己報告被害や被害の伝聞がみられる。

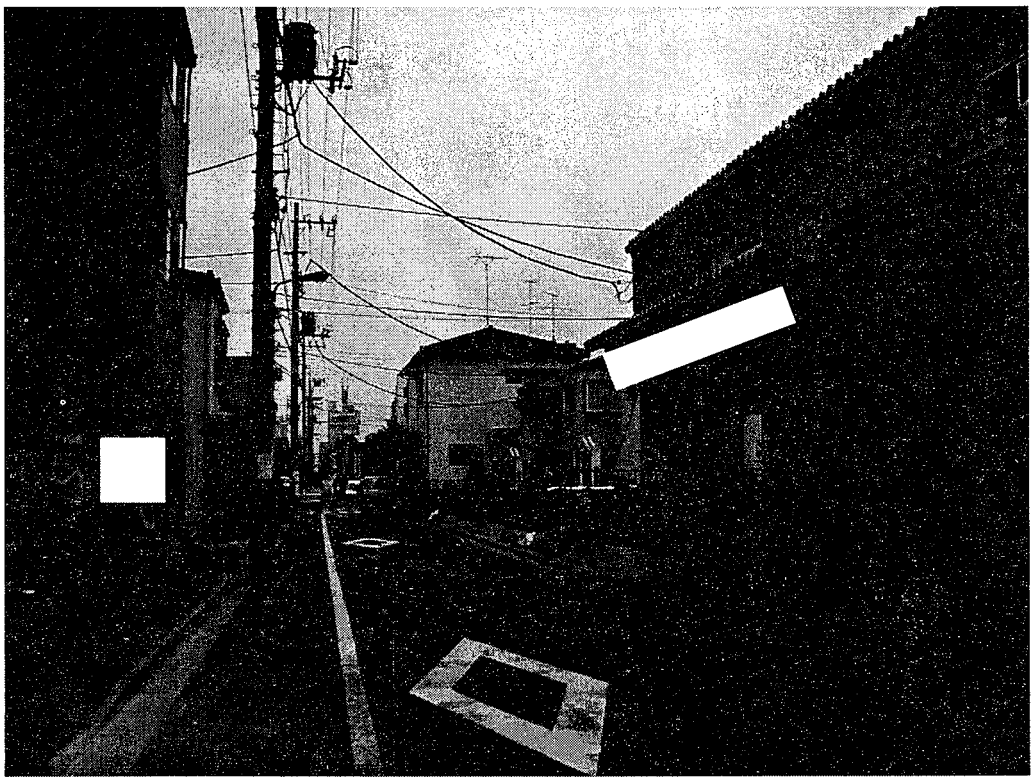

図4－3－1 C町2丁目(1)

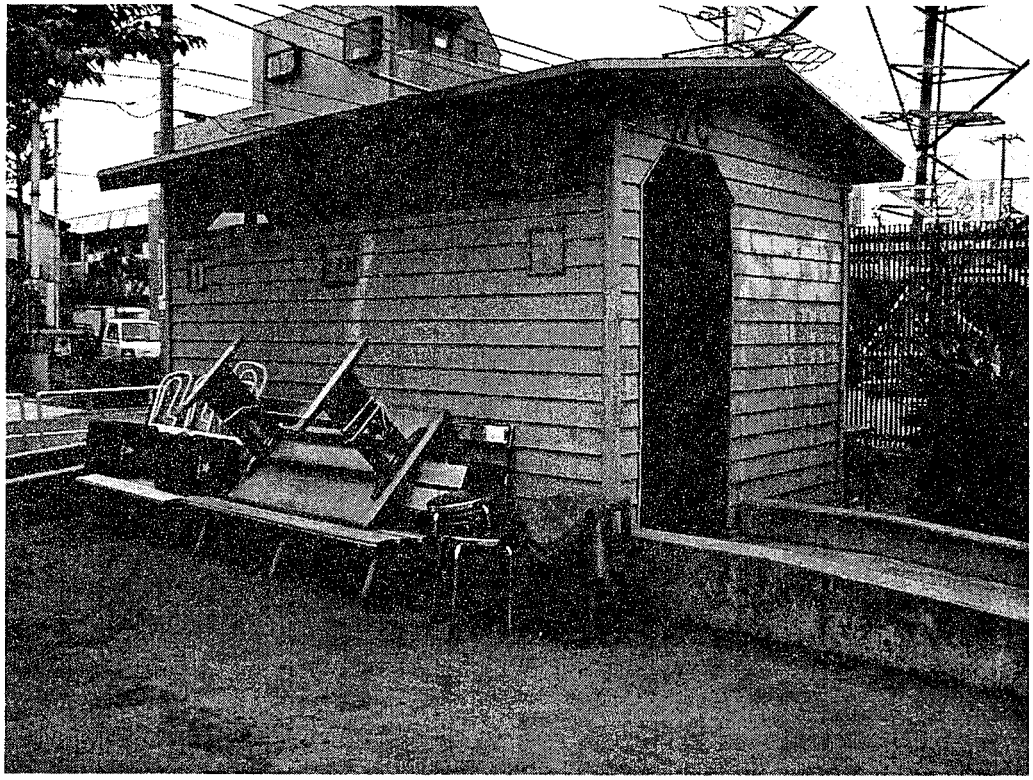

図4－3－2 C町2丁目(2)

図4－3－3 C町3丁目(1)

図４－３－２は、２丁目の公園で撮影したものであるが、バンダリズムのみならず、処置のはっきりしない机と椅子が、公園の管理が悪いという住民のマイナスイメージの形成に寄与している。加えて、２丁目の住民調査の結果から、居住環境評価全般が他の町丁目の回答に比較して悪いことが明らかになっている。事件情報に関する警察への通報意欲も低いため、住民ニーズの把握と不満解消によって、地域安全活動への積極的参加を促す必要がある。３丁目においても図４－３－３のように、高圧電線下の緑地の管理が不明確になっている場所がみられる。一見公共の場所のようにも思えるが、所々に私物とみられる物品が置いてあったり、敷地の一部が花壇代わりに使われている。こうした場所はゴミの不法投棄などを招きやすく、居住環境悪化の契機となりかねない。

４ D町１丁目

調査対象地域の西部に位置しているＤ町は、住民の居住年数が比較的長く、持ち家率が高い。地域内の人間関係も密で、近所つきあいや自治会活動が盛んである。また、地域内に親類のいる者や地域諸団体の役職経験者の割合も高い。そのため地域への愛着感や自己効力感が高く、地域の問題解決能力も高く評価する者の割合が高い。今回事例的に検討する町丁目の中では、最もコミュニティとしてのまとまりがある。

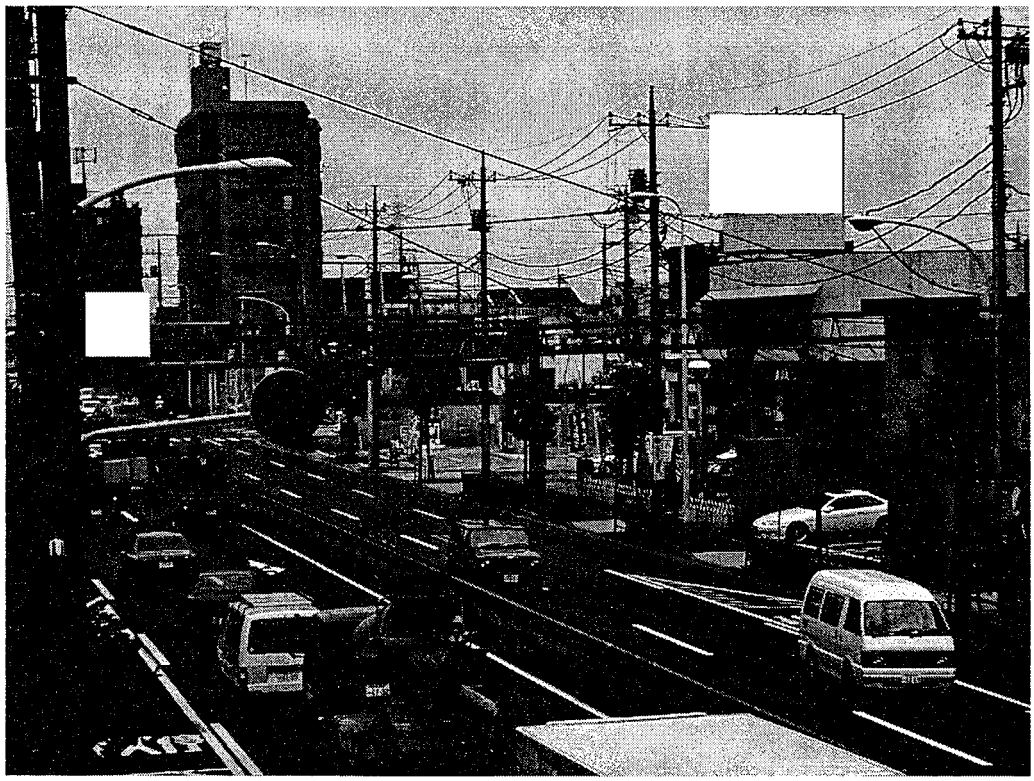

図４－４－１ D町１丁目（１）